

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 12	公益目的事業 19
主査名	石田信博 同志社大商学部教授 松澤俊雄 大阪市立大学名誉教授	
研究テーマ	都市圏構造と総合交通政策の研究 ー地域・都市の活性化と交通整備・運営	

研究の目的：

本研究グループでは、これまで地域・都市構造の分析と、交通部門における輸送・整備における対応およびそのあり方の分析を通じて、理論的・実証的研究を進めてきた。今日研究メンバーの多くが居住する京阪神地域は、人口ならびに経済活動面で停滞傾向にあるだけでなく、高齢者・生活弱者の増加も他の大都市圏よりも顕著にみられ、交通・運輸面では公的主体・運輸事業者を取り巻く経済・社会環境は一層厳しくなりつつある。この中で、本プロジェクトでは、他の日交研プロジェクト（低炭素交通研 G）とも連携しつつ、効率的・公平なモビリティを維持・形成し、地域の社会・経済・交流の活性化に資する交通全体の運営・整備上の課題と方向性について調査・研究を進めてきたしこの基本的姿勢は持続したい。本年度も基本的スタンスは同じで、総合交通政策の理論的・実証的研究を進める。交通の整備・運営と都市の活性化も重要な課題として視野におくが、とりわけバスをはじめとする路面公共交通の果たす役割についてさらなる調査を行い、新たな評価を加えたい。

1)研究テーマについての全体研究報告会と部会を随時開催し議論を進化させる。都市バスの運行や規制緩和の影響に関する「調査」を国内外で進める。

2)総合交通政策関係のデータ分析とまとめに向けての文献の勉強会を実施したい。

3)都市圏交通、総合交通政策、規制改革、都市圏物流についての一層の調査とデータベースの整備を進める。

研究の経過（4月～3月）：

上期においては、わが国の地域・都市圏交通流動データの一層の発展を図るとともに、構築済みの既存データを活用した研究を行なった。とりわけ本年度は、2016 年・2017 年の両年度での成果として想定していた、2010 年公的調査[国勢調査・大都市交通・PT（京阪神）・自動車交通・物流]結果をもちいた分析で不足していた部分を補う方向での研究を進めてきた。また、部会においては「路面公共交通」の研究会を並行的に進めた。全体研究会では「国内観光旅行の要因に関する一考察」「傾斜地を抱える都市の交通政策」「新幹線延伸・LCC 参入による FSC 運賃への影響について」等、また、他の研究会との共同で開催している文献研究会では、「low cost carrier サービスの空港への影響」都市バスに関する「Concessionary Fares Main Report」等を行なった。

研究の成果（自己評価含む）：

今年度、データ整備の発展により、相互依存的关系のなかで均衡を保つ鉄道利用と自動車利用の状態をより質的・量的に示すことができる糸口ができたと思う。とくにそれに関連した地域圏・都市圏の人的流動と交通手段の把握と分析を時系列的・整合的におこなうために、京阪神都市圏 PT データ 1970-2010 の整備を、トリップ目的別・手段別・小ゾーン OD 別に整備することができた。また広域地域間での鉄道・航空・高速バスについての「競争」について高速道路の整備とも絡めた研究報告がなされるとともに、より深い分析に向けてのデータベースの整備も行うことができたといえる。反面、（調査組織・日程確立の遅れ等）諸事情から、バスの運行・運営に関する「調査」はごく一部しかできなかった。また研究の進行が概して遅れ気味であったので、課題として重要な要因である総合交通政策に関する欧米の文献研究もあまり進行しなかったこ

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

とは反省しなければならない。速やかな進行を課題としたい。

上期・下期上期研究期間に未消化に終わった研究内容を含め、本プロジェクトの研究テーマである「地域・都市の総合交通政策」に関する研究を今後も続けていきたい。特に、関係する輸送データならびに流動に関するセンサスデータ等を用いた分析を継続するとともに、幾つかの具体的な地域・都市の総合交通政策について調査・研究を深めてゆきたい。反省点は、研究会の運営が（人数の関係もあり）散漫になりがちであったとともに、研究体制がこと。地域・国外での調査をおこなうべく考えていたが、海外での調査は情勢が不安定なことも重なり、実現出来なかったことである。

今後の課題：

今年度のデータ整備で、これまでの調査データの時系列整合性をある程度得ることができたので、公共交通－個別交通、鉄道－バス事業者間、バス事業者相互間での競合と協調を都市交通全体の中で捉え、競合と分担の中で、相互依存的関係と均衡を保っている状態を質的・量的に示し、効果的インフラ整備/運賃制度/運営体制などについての方向性の研究を進めるとともに、並行的には都市物流の効率化、都市交通と都心の活性化についての研究も進めたい。